

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195003132		
法人名	社会福祉法人 北見有愛会		
事業所名	グループホーム ライラックス		
所在地	北見市川沿町145番地80		
自己評価作成日	令和4年2月20日	評価結果市町村受理日	令和4年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内・外回りの清掃に力を入れ、快適に過ごせるように心がけています。活動的な生活が送れるように、天気の良い日は散歩、室内ではかるたやトランプで遊んでおり、いつも笑いが絶えないにぎやかな事業所です。利用者様に教えてもらいながら、漬物を漬けたり、昔懐かしいお菓子作りに挑戦しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195003132-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和4年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人友愛会により平成29年に北光地区の学生下宿を改装して開設されたグループホームライラックスは、15名の定員で運営されています。以前は近くに幼稚園、小学校があり登下校の子供たちから挨拶される日常があり、幼稚園の運動会には許可を得て、利用者が連れだって見物に出かけていました。町内会の花壇整備、その後の焼き肉会には席を用意して頂いて地域住民との交流がされていましたが、近年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止になっており、利用者の外出も禁止となっています。その中であって管理者、職員は利用者のストレスを和らげるためにゲームやトランプ、かるた、と室内での楽しみを多くし、更に、大声を出さないように、オセロや折り紙と個人の楽しみを見つける様に支援しています。日常の会話から縫物が出来る利用者には雑巾を作成していただき役割での満足感が得られるように支援しています。行事や誕生日を充実させて行き、その様子の写真をプリントし通信として家族に送り喜ばれています。このような状況下で管理者は室内外の清掃に気を付けており、利用者自身で床拭きをされる方もおり、建物周辺も職員と一緒に清掃・整備しています。「あい、ともに」の理念を日常的に実践しているグループホームとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	<input type="radio"/> 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	<input type="radio"/> 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	<input type="radio"/> 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	<input type="radio"/> 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	<input type="radio"/> 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	<input type="radio"/> 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当時の入居者様と考案した理念は見やすい場所に提示したり、ご家族への案内文書にのせるなど、どなたが見てもわかりやすいようにしている。	開設時に利用者の言葉から「あい・ともに」を理念に定めリビングや玄関の目に付きやすい場所に掲示し、意識した介護が出来る様に努めています。新人には管理者が研修を行い理解出来るように指導しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍においては地域の方との交流はできていないが、天気の良い日などは短時間でホーム周りの散歩をしていた。	町内会に加入し花壇整備や焼肉の行事への参加、近隣幼稚園の運動会見物などの交流をしていましたが、コロナ禍で中止されており現在は行っていません。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から、ご家族に認知症状についてや入居相談など受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の近況報告や相談・連絡を行っているがコロナの感染防止の為、ホーム内では行えず書面にて報告させていただいている。	運営推進会議は、コロナ禍ですべて書面会議を行っています。利用者家族、地域住民、民生委員、地域包括、市担当者には資料、議事録を送付し、意見、要望を把握しサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険法や報酬についての難解な部分はその都度市の担当者に確認したり、成年後見制度を利用されている方もおり、協力関係を築けるよう努めている。	市担当者とは報告書提出や介護保険の解らない事の質問や助言を得るために訪問や電話、メールでの情報交換等日常から連絡を取っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の設置、体制を整え身体拘束の具体的な症例や不適切ケアについて内部研修や毎月の会議でも確認し合っている。特に拘束にあたるような声かけをしていないかを気を付けている。	身体拘束廃止に向けては、市内系列の4グループホーム管理者で委員会を開催して各事業所の課題や現状、職員の理解度の協議を行い、方向を決めながら、各グループホームでの研修に繋げる様に取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会と、グループホームの全体会議での身体拘束についての各議事録の整備を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会の設置、体制を整え内部研修を行っている。身体拘束と同様、特に声かけに気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、利用されている方もおり年々増加していることも理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族の意向を確認しながら、わかりやすい言葉で丁寧な説明を心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話や表情から気持ちを気持ちよくくみとることができる関係作りに努めている。ご家族には来所時に近況報告をしたり、お手紙を送ったりしている。	利用者、家族の意見や要望は日常会話や面会時、電話連絡時に把握する様にしていますが、コロナ禍で面会が禁止となり家族とは主に電話連絡時に話をしています。行事や日常の様子を写真に収め家族に送り喜ばれています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の会話の中で運営に関する質問や意見を自由に話し合える環境作りに努めている。	職員の意見や提案は業務の中や会議の時に把握するようにしており、活発な意見交換をしています。定期的な個人面談は行われておらず必要に応じて管理者が話しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力にあった給与内容の見直しを行うと共に有給休暇をとれるよう勤務調整と環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染防止の為、法人外の研修は参加していないが、内部研修にてスキルアップできるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の他事業所との交流は月1回の管理者会議など、コロナ禍によりあまり会う機会もなく電話にての情報交換が主だった。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や病院などを訪問し、状態を把握した上でご本人やご家族の意向を確認しながら、不安を取り除けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの思いや入居してからの不安や要望について話を傾聴し些細な事でも相談していただけるようお伝えしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の希望を伺いながら、今何が一番必要としているか、ご本人の状態把握を一緒に考えている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に喜怒哀楽を共にし時には人生の先輩として職員の話を聞いていただいたりと、共に支え合う関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話にて状態報告を行いご家族と連携をとりつつ、過度の負担にならないような協力をしていただく事で、ご本人と一緒に支える支援を行っている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会がほとんどできなかったため、電話でお話をしたり、ホームでの行事や誕生会の写真を送ったりして安心していただけるように配慮している。	これまでは通っていた美容室への訪問や知人の訪問がありましたが、コロナ禍でできなくなり、知人とは電話での会話をっており、忘れない様に支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が会話の橋渡しをすることで孤立しないよう見守っている。1Fと2Fの交流も盛んにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	共に支え合ったものとしていつでも気軽に連絡して頂けるようお伝えしている。入居者を紹介いただけたらなどつながりが続いている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴や習慣などを参考に、職員同士意見を出し合い、ご本人に確認しながら、寄り添った支援ができるよう努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の意向は話の中で伺う他、生活歴や家族からお聞きする様にしており職員で共有して実現する様にしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報を参考にしながら、好みの物や趣味などを把握し、日々の生活に取り入れられるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各記録や申し送りなどを活用し、その帆の様子を確認しながら、一人一人の能力にあった活動ができるよう、職員同士話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議では入居者の状況を確認し合い課題分析を行う中で、支援内容が分かりやすいか、ご本人やご家族の意向に添えているか様々な角度から検討し介護計画を作成している。	介護計画は3か月から6か月で、利用者、家族の要望を反映して見直しを行っています。毎月のカンファレンス、サービス担当者会議、モニタリング評価を行い、現状に即した計画を作成しています。毎日の生活記録にはサービス提供の様子や会話が記録されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録は時系列に1日の様子やご本人の言葉などありのままに記入し、情報を共有することでケアの振り返りや介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行動的な入居者は外出希望が多く、コロナ禍では外出できないため職員が買い物に行ったり、ストレスがたまらないようゲームなどで気分転換していただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩をよくすることで、地域の方々に広く認識していただいております。近隣の方から野菜をいただいたりして、地域の皆様との交流がはかれています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで通院していた病院の継続や状況に合わせ医療機関の追加や場合によっては往診をおねがいするなど状態にあった支援をしています。	かかりつけ医への受診は事業所に対応しており、協力医からは往診を受けています。系列に訪問看護ステーションがあり、契約で毎週1回の健康チェックを受け安心な体制を築いています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師による健康チェックを行っている。職員も正確に日々の状況を記録、説明を的確なアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供の際に認知症状についての具体的な症状をお伝えし、入院中は状態の把握や今後考えられることの相談や情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご本人やご家族の意向を伺い、その段階になる頃に再度確認し、かかりつけ医やご本人やご家族と十分に話し合い、ご本人が最後の時まで望むケアを受けられるよう、関わる者全員共有している。	契約時に重度化している場合における看取り指針で出来ることを説明し、意向を確認しています。その段階になった時には主治医からの説明を受け、再度確認して望まれる方向で支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が緊急時対応がスムーズにできるようマニュアルを整備し研修を行い緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の実践的な避難訓練を行うと共に近隣住民の方に災害・緊急時協力支援者として災害時には昼夜を問わず協力して頂けるよう体制を整えている。	災害対策は年2回火災の避難訓練を行っており、消防署、地域住民の協力を得ています。今年度はコロナ禍であり、夜間想定で2回の自主訓練を行い職員教育を行っています。その他の災害では特に寒さ対策は簡易石油ストーブを用意しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する尊敬の念を持ちながら、なれ合いの関係とならないように、個々の人格を尊重した対応を心がけている。	利用者への呼びかけは苗字にさん付けを基本としています。あまり名前を連呼したり、出先で利用者の話をしない等、利用者の尊厳や羞恥心、個人情報に配慮した取り組みを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望や意見を尊重し、それぞれの興味や話題の提供、選択肢を用いるなど混乱せず自己決定ができるよう支援していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっているが、利用者の生活習慣やペースに配慮して、その人らしい暮らしができるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装、清潔に心がけている。職員による散髪や白髪染めなど希望に応じて対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューや食材の話から好みを聞いたりしながら一緒に盛り付けをしたり、食後は積極的に台所の片付けを手伝ってくださる方もいる。	主食とみそ汁は事業所で作っています。副食は近隣にある法人のケアハウスより運んでいます。クリスマスなど行事の時には事業所で調理したり、手作りおやつを利用者と取り組み、食事が楽しめる様に支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し食欲低下がみられる時には、好みの物や摂取しやすい物を用意したり、状態によっては主治医に相談するなど個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。うがいができない方等は口腔ケアガーゼを使用している。義歯は毎晩預り洗浄剤にてケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、さりげない声かけ誘導や介助を行いADLや自尊心の維持・向上につながるよう対応している	利用者全員の排泄記録を作成し、一人ひとりのタイミングを把握してトイレでの排泄が出来る様に支援しています。使用する下着を検討したりポータブルトイレを利用したり利用者の状況に合わせた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立は決まっているため、おやつにヨーグルトを出したり、軽運動の声かけをしたり工夫をしている。運動が難しい方は排便チェック表を活用して便秘薬の調整を行い便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴をしているが、気分がのらない時には無理強いせず日時を変更したり職員が交代したりと柔軟に対応している。	利用者の希望に沿い週に2～3回は入浴できる様に支援しています。自分で入浴できる利用者には見守りで安全に配慮しています。入浴剤を使用したり会話を楽しみ、気分転換を図っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜はぐっすり寝ていただくように日中は体操やゲームなどなるべく活動的に過ごすようにしている。 また、眠れない時には職員が話し相手になることで不安な気持ちを和らげるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の確認と整理を行い、用法・用量や副作用などを理解し、症状に変化がある場合には速やかに医療機関に報告できるよう状態把握に努める。 誤薬がないよう職員同士で氏名や日時などの確認を怠らないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常会話からその人に合ったお手伝いをお願いしている。 かるたやトランプ、オセロ、散歩など楽しみを見つけられるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出支援はできていないが、ホーム近くを散歩したり花に水をあげたり、玄関前の掃除のお手伝いをして頂いている。	花見やドライブ、買い物、幼稚園の運動会と、季節により外出していましたが、コロナの影響でグループホーム近くの散歩にとどまっています。その分トランプやかるた等室内でのゲームで気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望もあり、ほとんどの入居者はホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には入居者自らが話したい相手と気軽に電話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プランターで花を育てたり季節に応じた装飾をすることで季節を感じる空間になるよう心がけている。また換気や加湿器を使用し室温調節や温度を保ち心地よく過ごせるよう配慮している。	新型コロナウイルスの感染を防ぐために室内の換気を小まめにし加湿や室温調節をしています。プランターでの植物を育てたり、季節の飾りつけ、行事の写真を飾り楽しく過ごせる様に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に共有スペースを利用されたり、気の合った入居者同士お部屋に遊びにいたり楽しく過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの品を持ち込んでいた事で事により環境の変化による不安を最小限に抑え、居心地よく過ごされるよう工夫している。	居室は元々が学生下宿であったため、ユニットバスのスペースがあり、物入れになっています。その他クローゼットがあり個人のベットやタンスを持参して居心地よく生活できるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面所、お風呂など字と絵でわかりやすく表記している。		